

『第34回BMW技術全国交流会』 11月11日(火)～12日(水) 茨城県ひたちなか市で開催します

全国交流会への道①

なわれ、茨城BM代表の清水裕一さん（BMW技術協会全国理事）が選任されました。

さらに茨城で開催することになった経緯の説明、開催日程と会場の選定、交流会のテーマと内容などについて意見交換が行なわれ、開催に向けて方向性と今後のスケジュールについて確認を行ないました。

◎開催日程について

11月11日(火)から12日(水)の2日間、会場は茨城県ひたちなか市の「ホテルクリスタルパレス」にて開催することが決まりました。

◎全国交流会のテーマについて

出席者全員で意見交換が行なわれ、各々の考えや視点から、次のキーワードが出されました。

・持続可能な「食」「農」「地域環境保全」

・未来への継続をどう考えるか

・環境を守るための行動とは？

・農業の問題は日本の食の問題

・気象変動・栽培技術の向上

・有機栽培や農産物の価値や評価、適正価格とは？

・物価高騰・高騰する資材、燃料、機械→農産物の価格への影響

・生産者の生の声を伝える

・生産者と消費者が共に考える

・家族との絆、人、技術、未来

・BMW技術の役割

これらのキーワードを基に活発な議論が行なわれましたが、決定までには至りませんでした。そこで各自が持ち帰り検討し、次回の

実行委員会（7月開催）で決定することになりました。

◎全国交流会の内容について

一日目は基調報告を伊藤幸蔵理事長、基調講演を清水裕一実行委員長、特別講演として、川田研究所（茨城県つくば市）の川田肇氏に、「微生物とミネラルとの関わり」について、京都大学の奥地拓生氏（BMW技術協会技術顧問）には、9月に茨城県笠間市にて花崗岩の調査を行なっていただき、「茨城の花崗岩・地球の歴史」についてふたつの講演をお願いしています。

二日目は、茨城BMの若手生産者の取り組みや実験発表を中心に、みやぎBMW技術協会、糸島BM農法研究会の実験発表などを予定しています。

なお、午後からのオブション視察は、茨城県茨城町の茨城BMと清水牧場のBMプラント、鉾田市の茨城BMの生産者の圃場、ラムサール条約登録湿地の酒沼や笠間市の花崗岩採石場など3つのコースを予定しています。

昨年から続く「米」の問題は、農業だけの問題ではなく、食と生活、流通に至るまでの問題が露呈しました。厳しい時代が続く中、BMの仲間が日本全国とアジアから集い、生産者・生協・消費者が一体となって議論し、学び、交流する場となることを願い、多くの皆様の参加をお待ちしています。

（報告：BMW技術協会 秋山澄兄）

※開催概要は次頁をご覧ください。



実行委員会キックオフミーティング

◎開催案内は8月上旬に、**会員**
の皆様にお届けします

『第34回BMW技術全国交流会』

■開催日程（2025年）

11月11日（火）

交流会 13時半～17時半

懇親会 19時～21時

11月12日（水）

交流会 9時～12時

オプション視察 13時～

■交流会・懇親会会場

「ホテルクリスタルパレス」

茨城県ひたちなか市太平

※アクセス

お車／北関東道ひたちなかICよりJ

R勝田駅方面へ約30分

電車／JR常磐線 勝田駅下車（東京か

らJR特急で約1時間30分、勝

田駅からはシャトルバス、また

はタクシーで約10分）

■交流会一日目内容（敬称略）

◎開会セレモニー

開会挨拶・歓迎挨拶・来賓挨拶

◎基調報告

BMW技術協会 理事長 伊藤幸蔵

◎基調講演

BMW技術全国交流会実行委員長

茨城BMW代表 清水裕一

◎特別講演① 川田研究所代表 川田肇

◎特別講演② 京都大学 教授 奥地拓生

◎交流会一日目総括

◎懇親会

■交流会二日目内容

◎BMW技術活用事例報告・生物活性水を使用した実験報告

【発表者】

茨城BMW・糸島BMW農法研究会

あいコープ農法研究会 他

◎交流会全体総括

◎閉会挨拶

■オプション視察（昼食并当付）

【Aコース】

茨城BMWと清水牧場のBMWプラン

トと堆肥場、茨城BMWの野菜生産者

の圃場（JR水戸駅解散）

【Bコース】

ラムサール条約登録湿地「涸沼」と

茨城BMW・清水牧場のBMWプラント

と堆肥場（JR水戸駅解散）

【Cコース】

常陸稲田花崗岩の石切場と徳川公園

（JR水戸駅解散）



花崗岩の石切場（茨城県笠間市）

BMW トピックス

**BMW技術協会第14回
定時総会が開催されま
した**

6月12日（木）の午後3
時30分から、東京都千代田

区の「TKP九段下・神保町ビジネスセ
ンター会議室」にて、BMW技術協会第
14回定時総会が開催されました。今回の
開催はオンラインを含むハイブリッド開
催で、会場に16名、オンラインで6名の
出席がありました。

総会に先立ち、伊藤理事長より開会の
挨拶がありました。「第14回定時総会に
集まっていたいただき、ありがとうございます
です。今、米価のことをはじめ、世論を含
めて農業に大きな関心が高まっていると
思います。農家側とすれば気候への危惧
は大きく、今年の作況にも不安を感じて
いて、どうなるかわからない状況におか
れていることは確かです。昨年の秋田で
の全国交流会で議論があったように、農
業だけの問題でなく、消費者を含め我々
の「食」の問題であり、紐解いていくと
気象や環境などの問題に繋がっていきま
す。BMW技術協会では、皆さんと一緒に
この問題を乗り越えて行きたいと思い
ますので、よろしく願います。」

続けて、今年の11月に開催する「第34
回BMW技術全国交流会」について、実
行委員会委員長の清水裕一氏（BMW技
術協会全国理事）から開催概要と開催に
向けての挨拶が行われました。

総会をはじめに定足数の確認が行わ

れ、総会の成立が宣言されました。次に
報告事項として、第14期活動報告がおこ
なわれました。次に決議事項として第1
号議案から第3号議案までの議案決議が
おこなわれました。第1号議案「第14期
決算報告及び監査報告の承認について」、
第2号議案「第15期活動方針・計画（案）
及び予算（案）の承認について」、第3号
議案「任期満了による常任理事改選につ
いて」、すべての議案は満場一致で承認さ
れ、無事総会は終了しました。

なお、常任理事（定数11名）は9名が
重任、2名が新たに新任され、総会後の
臨時常任理事会では理事長の選任が行な
われ、伊藤幸蔵氏が理事長に再任されま
した。



総会に出席された常任理事・全国理事の皆さん

【今回改選された常任理事】

(重任9名)

伊藤幸蔵 米沢郷牧場グループ

豊下勝彦 ポークランドグループ

木内克則 和郷園／千葉BMW技術協会

向山洋平 山梨自然学研究所

西村大輔 グリーンコープ連合会

浦 克稔 紅会／西日本BMW技術協会

村上倫久 村上園

吉見幸樹 生活クラブ大阪

石澤直士 クレスト

(新任2名)

工藤友明 バルシステム連合会

内藤雅之 生活クラブ連合会

【退任された常任理事】

那須 豊 パルシステム連合会

林 洋一 生活クラブ連合会

【監事】

大崎裕一 夢産地とさやま開発公社

※監事は任期4年のため新たな選任なし
総会後は出席者全員より近況報告がおこなわれました。話題の中心は米の問題から農業に迫る危機的な状況、そして経済的問題による離農や過疎による地域の危機、諸外国の問題などについて、職種や所属団体の垣根を越えて、分け隔てのないBMW技術協会ならではの意見交換が行なわれました。

また、今年度にBMW技術を導入する予定のベトナムから、ANVIEET社のナム会長とタック社長が出席され、現在の進捗状況と今後の計画などについて話を伺いました。

(報告…BMW技術協会事務局 遠藤尚志)



◎ベトナムでのBMW技術普及に向けて

■ANVIEET社(3名)と三美産業(4名)がBMW技術協会会員産地と生協を視察訪問、交流を行ないました。

◎6月9日(月)

宮城県仙台市のあいコープみやぎとクローバースファームを訪問しました。あいコープみやぎでは、吉武常務より生活協同組合そのものの歴史、あいコープみやぎの取り組みや仕組みについてお話をいただきました。生協自体がベトナムにはなく、生協の仕組みと、生産者と消費者(組合員)の関わり、BMW技術との関わりなど、「とても興味深かった」とANVIEET社のナム会長。

クローバースファームでは、細谷滋紀代表からクローバースの取り組みについ

て伺い、トマトを栽培しているハウス、堆肥場、生物活性水プラントを見せていただきました。栽培での生物活性水の活用、その効果についても伺いました。

◎6月10日(火)

米沢郷牧場グループを視察しました。朝から、飼料工場、伊藤代表の有機田んぼ、平飼い採卵鶏の農場と飲水改善と生物活性水プラント。午後からは堆肥センター、横山裕一さんのサクランボやフランスの園地、飼料米倉庫など。最後はファーマーズ・クラブ赤とんぼを訪問し、新たな取り組みを始めている堆肥場、精米工場を視察しました。

地域資源循環型農業とBMW技術の真骨頂を、皆さんに理解していただけたと思います。

■今後の普及について

米沢郷牧場の飼料工場にて

あいコープみやぎにて



三美産業とANVIEET社が合弁会社を設立し、BMW技術協会及び匠集団そらが技術指導を行なっていく予定です。現在は2025年度内にパイロットプラントを2カ所に設置する計画を進めています。計画では、飲水改善と生物活性水プラントを小規模の養鶏場、養豚場に設置する予定です。(報告…BMW技術協会事務局 秋山澄元)

◎協会からのお知らせ

「BMW技術協会30周年記念スライド」第33回BMW技術全国交流会にて、皆さんにご覧いただいた、「BMW技術協会30周年記念スライド」のフルバージョンがご覧いただけるようになります。左記のQRコードにアクセスをしてご覧下さい。スライドではBMW技術とBMW技術協会の30年の歴史をダイジェストでお伝えしています。



「書籍のご案内」
BMW技術協会顧問・長崎浩氏の著書で、農文協の民間農法シリーズから発刊された、「BMW糞尿・廃水処理システム」が再版されました。BMW技術を知る入門編として最適な1冊です。しばらくの間、手に入りにくい状態が続いていましたが、再版いたしました。BMW技術協会・匠集団そらのホームページのオンラインショップ(BMW技術関連商品を販売しています)からご購入できます。BMW技術のバイブル、この機会に是非、お求め下さい。



BM-shop

西日本BMW技術協会 BMW技術学習会・会員訪問報告

◎グリーンコープやまぐち生協学習会
6月5日(木)、グリーンコープやまぐち生協でBMW技術学習会が開催されました。

GCやまぐち生協でのBMW技術学習会は初めてで、県内全域から67名もの組合員、事務局が参加されました。講師はBMW技術協会の秋山澄兄事務局長、グリーンコープBMW事務局の宮崎が同行しました。

まず、BMW技術の考え方、グリーンコープとのかかわりについて話がありました。グリーンコープとBMW技術の出会いとは35年前になる、この技術によってグリーンコープの物流センター(福岡青果、若宮)で中水利用をしている、グリー



学習会の様子

ンコープの多くの生産者がBMW技術を活用している、インドネシアのエコシュリンプの加工場での排水処理にも活用されている、フィリピンのネグロス島のカネシゲファームでもBMW技術が活用されている、そしてBMW技術は農家など皆さんで創り出している技術であるなどの話が最初にありました。

BMW技術については、主に畜産分野から始まり、耕種農業と連携して有畜複合を目指していること、BMW技術で活用する岩石、土の話などから始まり、畜産や耕種農業の現場でどのように活用されているかという話がありました。

暮らしの中では、糸島BM農法研究会の柴田さんが自宅の便槽を原料に生物活性水を作っていること、生物活性水プラントの仕組みの話がありました。グリーンコープで販売している生物活性水は広島自然学研究所で、旭鳳酒造の米のとぎ汁とグリーンファーム久住の堆肥を原料に作っていることがありました。

生物活性水の具体的な使用方法としては、家庭菜園、ペットの飲み水、トイレなどの臭い消しに、洗濯機に入れる、お風呂に入れるなどの使い方の紹介がありました。

また、グリーンコープおおいたの組合員さんから、「毎年生物活性水BMそら20リットルを購入している、犬や猫のウンコやシッコの臭いがしない、汲み取り便所もスプレーするだけで臭いがしない、

学習会後に参加者の皆さんと記念撮影



BMそらをもっと広めてほしい。」というお便りが紹介されました。

■会場から質問を受けました。

Q…飼っている猫にあごニキビができて困っているのですが、生物活性水で効果がありますか。

A…効果があると思いますが、実例はありません。害になることはありませんので、原液で使ってみてください。

Q…流しの排水口のヌメリや臭いに効果がありますか。

A…あります。原液で流してみてください。ヌメリがとれるし、臭いも軽減します。

Q…子どもの足の臭いがきついのですが。

A…効果があります。原液で吹きかけて

みてください。

Q…生物活性水は、原液を肌に直接吹きかけるなどして使っても大丈夫ですか。

A…大丈夫です。

Q…お風呂に原液を入れると水替えの頻度を落としても大丈夫でしょうか。

A…水持ちは良くなると思います。水替えの頻度が少なくなるという方もいましたが、よく分かりません。しかし体がポカポカする、塩素除去の効果があるのは間違いありません。

(報告…グリーンコープBMW事務局 宮崎利明)

◎会員訪問(柴田周作農場・川口畜産)

6月6日(金)、福岡県糸島市の糸島BM農法研究会・柴田周作農場を訪問しました。最初に生物活性水プラントのEC、pH、亜硝酸態窒素を測定しました。現在柴田さん宅では奥さんと二人暮らしのため、自宅の便槽だけでは原料が足りないため、5槽目に唐津ビッグファームの生物活性水を足して便槽に戻しているとのことでした。

その後、今年の全国交流会での発表に向けての実験について相談しました。糸島BM農法研究会のメンバー各自で自分の栽培作物をアクリルの透明容器の中で、根も見える状態にして、対象区(水のみ)・試験区(100倍、500倍)で栽培することで、どのような変化が出るのかを実験することになりました。11月に茨城県で開催される全国交流会での発表が楽しみです。

6月7日(土)、佐賀県武雄市にある川

口畜産を訪問しました。川口畜産は母豚500頭の養豚場で、生物活性水プラントはラグーンで処理された豚尿が原料になっており、4トン槽×4基です。最終槽の生物活性水は透明感があり、状態が良さそうでしたが、各槽を計測したところ、2〜4槽目までのpHが4.5〜2.3と低くなっていました。出来上がった生物活性水は場内の洗浄水に混ぜて使っているようですが、使用量が少なく、プラントでの滞留時間が長くなり、曝気され続けたことが原因のようでしたので、使用量を増やすため、別の使い方も検討いただくようお願いしました。

◎農援隊でBMW技術学習会開催

6月6日（金）、農援隊の生産者を対象にした学習会が開催されました。



柴田周作さん（中央）



川口畜産の生物活性水



農援隊での学習会

農援隊は佐賀県唐津市を中心に、養豚農家や青しそ、にら、小松菜、グリーン

アスパラガス、レモンなどの耕種農家の生産者が集まったグループです。グループの一員である唐津ビッグファームの生物活性水は、西日本BMW技術協会の会員へ供給しています。

学習会は午後からなので、午前中はレモンの生産者である浦田大暉さんのハウスを見学させていただきました。最初に見せていただいたハウスは、以前小ねぎが栽培されていたハウスを昨年購入し、苗木を植えたばかりなので、まだ若木の状態でした。浦田さんからは、若木に生物活性水を散布すると、どのような変化があるのかを実験してみたいと言われていました。その後、レモンが成っている収穫終盤のハウスも見学させていただきました。

ました。

午後からは、唐津市内の会場で学習会が開催されました。参加者は、農援隊の生産者6名（畜産農家2名、耕種農家4名）、そして糸島BM農法研究会のメンバー3名がオブザーバー参加されました。講師はBMW技術協会の秋山澄兄事務局長、西日本BMW技術協会事務局の宮崎と秦が同席しました。

農援隊では、30代の若い生産者が増えることから、BMW技術の基礎を学ぶことに加え、唐津ビッグファームの生物活性水をもっと活用していこうということから学習会の方が設けられました。そのため、学習会ではBMW技術の考え方から始まり、BMW技術の基礎、「耕種農業における生物活性水の使用ガイド」を使いながら、農業における活用を中心に

説明いただきました。BMWのM（ミネラル）のところで花崗岩を説明される際、すぐ近くにある脊振山系で花崗岩が採取され、良質な水の恩恵を受けているというお話もいただきました。

その後の質疑応答では、基礎的な質問から耕種農家の活用方法についての質問がありました。

Q：花崗岩は珍しい岩石なのですか。

A：花崗岩自体は、非常に一般的な岩石で、珍しいものではありません。

Q：生物活性水の保管方法は、消費期限などはありますか。

A：日光に当たらないように保管してください。日光に当たると藻が生えます。藻が生えた状態でも使用そのものに問題はありますが、希釈して灌水チューブなどで使う時に目詰まりするかもしれません。消費期限はありませんが、概ね1年間くらいを目途に使い切るようにしてください。もし長期間保管するのであれば、金魚の水槽などで使うブクブクを使って曝気した方が良いでしょう。

Q：生物活性水には特定の菌がいますか。

A：特定の菌はいません。生物活性水を製造する過程において微生物が有機物を分解した代謝物が残っています。本日参加されている糸島BM農法研究会の生産者の方からも一言お願いします。「自分は定植前に使っており、根張りがよくなります。」

（西日本BMW技術協会事務局 秦武士）

グリーンコープふくおか BMW 技術学習会

「赤村の農業と水と花崗岩」報告

6月21日（土）、福岡県赤村の「源じいの森」にて、グリーンコープ生協ふくおか主催のBMW技術学習会「赤村の農業と水と花崗岩」が開催され、会場には26名、オンラインで11名の参加がありました。

この学習会はグリーンコープふくおかから、赤村の花崗岩についての現地調査と講演をお願いしたということで、BMW技術協会を通してBMW技術協会技術顧問の奥地拓生氏（京都大学 教授）に依頼をいただきました。5月17日（土）には、赤村と北九州市の平尾台にて花崗岩や石灰岩などの調査（AQUA6月号参照）を行ない、今回は現地調査報告を含め、奥地先生による講演が行われました。

グリーンコープ生協ふくおかでは、地域再生プロジェクトの赤村プロジェクトに取り組んでいます。有機農業に取り



源じいの森で行なわれた学習会



5月に行なわれた現地調査

はじめに開会挨拶として、グリーンコープふくおか北九州地域理事長の安倍百々さんから、今回の学習会を企画した経緯と赤村での取り組みについての説明が行なわれました。「なぜ赤村の水が綺麗なのか、なぜ有機農業に取り組むのか、その科学的根拠を突き止めることができるのではないかという想いがこの学習会の企画に至った経緯です」次に5月17日（土）

組む鳥越ネットワーク、農創会、グリーンコープによる三者共同の地域再生プロジェクトで、「農業を推進力にした地域再生」を掲げて2024年5月に発足、都市と農村の支え合いで環境と農業を守り、農業を通じて地域社会の持続可能性を高めることを目的に、耕作放棄地の再生、生産者と消費者のつながりの強化、環境保全型農業の推進をしています。

赤村は炭鉱が多かった北九州地方に位置しますが、花崗岩の山「岩石山（ガンジャクサン）」、花崗岩だけでなく変成岩や凝灰岩など多様な岩石と水に恵まれた地域です。今川を中心に田園が広がり、のどかな里山地域でもあります。

◎学習会

に行なわれた現地調査について、グリーンコープふくおかの坂本寛子理事長から報告が行なわれました。花崗岩で形成された岩石山の花崗岩や、今川源流の溪谷で変成岩などの調査を行なったこと、苔（バクテリア）が根から酸を出し、岩石からミネラルを得ることで、その岩石は崩れて土壌になる。土壌はそうやってできたことを学んだことなどが報告されました。

次に奥地先生の講演です。奥地先生からは現地調査を行なった赤村の花崗岩と平尾台の石灰岩を基に、赤村の地形や花崗岩の構造、鉱物の特徴、そして日本列島の岩石と鉱物の多様性などについて説明が行なわれました。

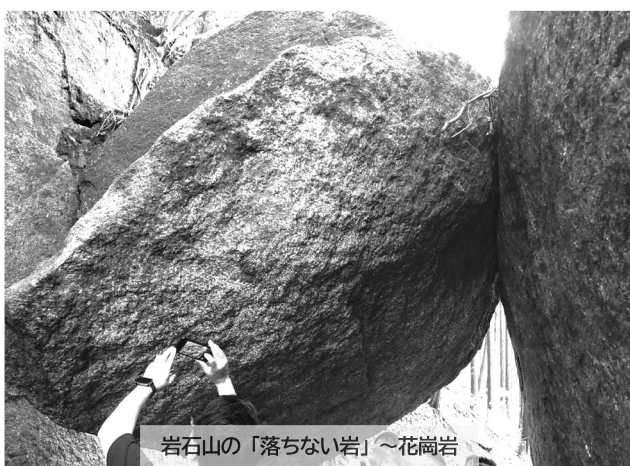
■赤村の花崗岩と平尾台の石灰岩

赤村の花崗岩は約1億年前のもの、平

尾台の石灰岩は3億年前。また近くには約700万年前から500万年前ぐらいに火山活動していた英彦山（ひこさん）があり、この地域全体で多種多様な岩石が多く見られることがわかる。

■九州から日本列島

九州は阿蘇山と桜島に大きな火山があり、今も活動を続けています。日本列島は4つのプレートの境界に位置する特異な場所、火山国であり地震国でもある。これらのプレート運動が花崗岩の形成につながっている。生命の歴史と鉱物の関係性で見ると、海底熱水噴出孔（マグマだまり）で最初の生命が誕生し、岩石中の無機物を栄養源として利用した。その後、陸上植物は岩石からミネラルを取り込み、この流れによって土壌は造られてきた。生命の進化における鉱物の役割はい



岩石山の「落ちない岩」～花崗岩



平尾台の石灰岩カルスト

かに重要であつたかわかる。

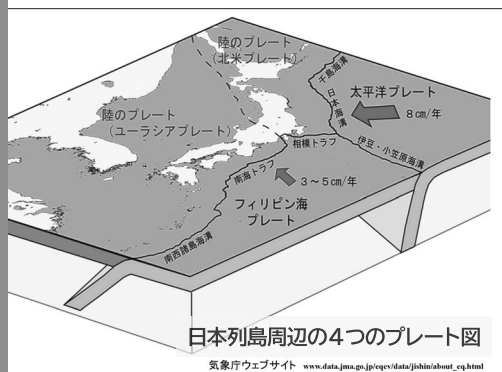
また、地球上でミネラルの供給は、プレートとの動きによる下からの供給があり、火山灰による上からの供給がある。赤村は両方の恩恵を受けている恵まれた場所と言える。

■花崗岩と日本の文化

日本の花崗岩の分布を見ると、製鉄、砂鉄、日本刀、刃物、そして米や酒造りとの深い関わりがある。花崗岩の山を水源とする地域は、兵庫県から西、中国地方の各県のように米・酒造りの発展に寄与している。

■花崗岩について

花崗岩はマグマが地球の奥深くで水と接触し冷え固まってできたものであり、鉱物の集合体であり多種多様なミネラルが含まれている。花崗岩に含まれるミネラルバランスは、人の血液や海水に類似していて、その事からも花崗岩が在る地域の水は、生命を育む豊かな水であり土壌にもその影響を及ぼしている。

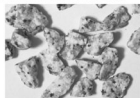


日本列島周辺の4つのプレート図

気象庁ウェブサイト www.data.jma.go.jp/eqvs/data/jshin/about_eq.html

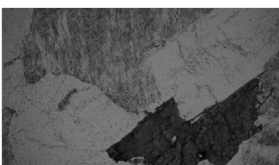
花崗岩とは

マグマが冷えて固まってできた鉱物の集合体



それは「鉱物」の集合体であり

それは「マグマ」が冷えて固まってできたことがわかる



岩石山と今川

■赤村地域のミネラル起源

花崗岩、石灰岩、凝灰岩、変成岩、そして火山灰などが赤村地域のミネラル供給に重要な役割を果たしている。繰り返されるが、水が豊かで、土壌が豊かな地域である。これらは日本、そして世界に誇れるものであり、地球・生命の歴史が凝縮されたような地域である。

奥地先生の講演後、質疑応答が行なわれ、多くの方々の質問がありました。一部を抜粋します。

Q…硬水と軟水の違いによる影響はありますか。

A…地域のよって水の違いはあります。各地域で水の特徴に合わせて生き物は生きてきているので影響があると言えます。例えばありますが、どちらが良いとは言えません。ただ花崗岩だけが良いという事では決まてないのですが、花崗岩は水を蓄える力があるので水は磨かれると言われ、赤村のように

水処、米処になります。

Q…うちはこの近くに住んでいて、井戸水を使っています。エコキュートを使っているのですが、故障した時に業者の方から、「お宅の水はミネラルが豊富でとても良い水ですが、エコキュートは銅管を使用しているので銅が溶けてお風呂の水が水色になる。良い水であればあるほどエコキュートはこうなってしまう」と言われ、嬉しいけれど機器を使って行く上で少し複雑です。

A…とても羨ましい悩みですね。エコキュートのような機械、工業的に扱いやすい水は純水です。純水はミネラルがほとんど含まれていない水です。この場合はミネラルが逆に悪影響を及ぼします。一方で純水では生き物は生きていけません。水を使い分けることができれば良いですが、その水はとても良い水なので大事にしたいのだと思います。

■赤村で有機農業に取り組む、鳥越ネットワーク代表の鳥越耕輔さん

赤村は人口が2800人で有機農業の村と言われています。ですが、村が自称するほど進んでいないのが現状でもあります。今日の奥地先生の花崗岩や水の話は、赤村の有機農業に直結していることだと思いました。赤村の有機農業は父の世

代が約40数年前に始め、当時は変人扱いされていました。赤村有機農業生産組合を作り、最初は数人でしたが現在は約17名、1700俵程度の有機のお米を栽培しています。グリーンコープの産地として、多くの組合員の皆さんに助けていただきながら有機農業を続けてきました。有機農業と地域を未来に繋げて行くため、「赤村プロジェクト」も一緒に行なっています。

大きい動きではないですが、40代の後継者も多く、今日の話にあったように、赤村は有機農業に適した、恵まれた地域だと思います。奥地「赤村の水が良いと思うことがありますが。」

鳥越「思います。若いときは大阪にいましたが、赤村に帰ってきた時に本当に水が美味しいと感じました。小さい時は川でよく泳いでいて、魚も沢山いて、環境を含め良い水だと思っています。」

今回の現地調査と学習会を経て、赤村は多種多様な岩石と花崗岩に磨かれた水に恵まれた地域であり、BMWそのものであるということが理解できたと思います。鳥越さんが有機農業を続けることは、水を含めた赤村の環境を守っていくということであり、赤村だけではなく、今川流域全体、豊前の海に至るまでの環境を守っていることでもあるといえます。生産者と生協が一体となって地域環境を守っていく取り組みに期待しています。(報告:BMW技術協会事務局 秋山澄兄)

事務局だより

BMW
技術協会
&
匠集団そら2025
6月・7月
JUN・JULY

【6月の活動】

- 2日 茨城県水戸市で開催された第34回BMW技術全国交流会実行委員会キックオフミーティングに出席
- 3日 熊本県氷川町の宮崎ファームを訪問
- 4日 熊本県南阿蘇村の南阿蘇村有機肥料生産センターにてプラント巡回
- 5日 山口県山陽小野田市にてグリーンコープやまぐち生協主催のBMW技術学習会
- 6日 福岡県糸島市の糸島BM農法研究会を訪問、佐賀県唐津市にて農援隊主催のBMW技術学習会
- 9日～11日 三美産業（岡山県）とベトナムのANVET社が、宮城県仙台市のあいこープみやぎ、クローバースファーム、山形県高畠町の米沢郷牧場グループ、などを視察訪問
- 10日 福岡県中津市にて耶馬溪ファーム第4回建設定例会議に出席
- 12日 東京都千代田区にて、BMW技術協会常任理事会と第14回定時総会を開催
- 14日 埼玉県蕨市のパルシステム埼玉・蕨センターにてプラント点検
- 16日 茨城県ひたちなか市のホテルクリスタルパレスにて第34回BMW技術全国交流会の打合せ
- 18日 埼玉県飯能市の生活クラブたまご飯能GPセンターでプラント点検
- 19日 埼玉県さいたま市のパルシステム連合会・岩槻センターと白岡市のパルシステム埼玉・白岡センターにてプラント点検
- 静岡県静岡市の村上園にて生物活性水を使用した実験の確認とプラント巡回

21日 福岡県赤村にてグリーンコープ生協ふくおか主催のBMW技術学習会（奥地拓生氏による石臼講座）

23日 山梨県甲斐市の山梨自然学研究所にてプラント点検

25日 新潟県上越市の峯村農園にてプラント巡回

26日 兵庫県西宮市で開催された、グリーンコープひょうご・おおさか・GreenGreen交流会in関西に参加

【7月の予定】

4日 広島県広島市の広島自然学研究所にてプラント巡回

8日 福岡県中津市にて耶馬溪ファーム第5回建設定例会議に出席

宮崎県綾町の綾町有機農業開発センターにてプラントの補修工事

9～10日 宮崎県綾町にて第24回BMW技術基礎セミナーを開催（西日本BMW技術協会の総会・研修会と共催）

15日 福岡県宮若市のグリーンコープ連合会・若宮物流センターと筑紫野市の福岡青果センターにてプラント点検

17日 山形県村山市のバル・ミート山形事業所にてプラント点検

18日 千葉県千葉市で開催される千葉BMW技術協会の総会・研修会に出席

20日 新潟県阿賀野市で開催される新潟オーガニックフェスタに参加

22日 茨城県水戸市のパルシステム茨城栃木・みとセンターにて第34回BMW技術全国交流会実行委員会に出席

薬膳の話 141
〜 キウイフルーツ 〜

小暑（7月7日）から大暑（7月22日）にかけて、湿度と暑さで消化器系の機能が低下するため、中国では山芋やカボチャ、緑豆を食べるよう言われます。暑さで心臓に負担がかかるため、赤い食材（トマト、スイカ、小豆、クコの実や、身体の熱を除く辛い食材）（ゴーヤ、セロリ、ピーマン、レタス、緑茶など）も取るようにします。

1970年代に温州ミカンなど柑橘類の価格が、過剰生産によって大暴落したため、転作用の作物として全国に広まりました。原産は中国ですが1900年ごろ、ニュージーランドが品種改良に成功しました。その後栽培が本格化され、アメリカへ輸出する際、国鳥キウイに因んで「キウイフルーツ」と名付けられました。グリーンとゴールドがあり、グリーンは、食物繊維とたんぱく質分解酵素が多く、ゴールド1個分のビタミンCは、1日の摂取量を上回る140mgです。キウイには各種ビタミンのほか、カリウムなどのミネラル、食物繊維、葉酸や鉄も豊富で、抗酸化作用やコレステロール値を下げるスーパーフルーツです。メラニンも含まれているため、就寝1時間前に食べると睡眠の質が良くなります。皮には葉酸とビタミンEが果肉の3割、食物性繊維は5割も含まれているので、アルミホイルを丸めたもので表面の毛をこそすって皮ごと食べるのがおすすめです。

固いものは、バナナやリンゴと一緒にポリ袋に入れて追熟させます。何日経っても変化がない場合は、果皮に傷をついたり、軽くぶつけたりして衝撃を与えると、追熟のスイッチが入ります。キウイを食べると口がピリピリすると感じる人がいるのは、たんぱく質分解酵素アクチニジンのせいです。キウイの皮を肉にこすり付けてしばらく置いておくと、アクチニジンの働きで肉が柔らかくなります。

旬は国産が11月～5月、ニュージーランド産は5月～11月です。四気は「寒」、五味は「甘、酸」、帰経は「腎臓、胃、肝臓」です。気の流れを良くして胃腸機能を整えます。熱を冷まし、喉の渇きを抑え、身体を潤します。胃の働きを活発にして消化を助け、食欲不振、吐き気、げっぷ、しゃっくりを止めます。

また、焦燥感や精神不安を伴う熱感を鎮めます。糖尿病、黄疸、利尿にも使われます。嘔吐には、しぼり汁にショウガのおろし汁を加えて飲みます。

最近の研究では、高度気分障害の軽減に有効なことが分かって来しました。

◎BMW技術協会事務局 佐々木エリカ
北京中医药大学日本校薬膳養成学科卒業
中医薬膳士、総合漢方研究会会員